

学生・保護者の皆さまへ

武庫川女子大学
遠隔授業推進特別チーム**第3回 遠隔授業に関する調査結果について（報告）**

後期授業が始まり、1か月半になります。後期からは「with コロナ」を念頭に、原則として演習・実験実習・実技などを伴う授業は対面で、講義科目は遠隔で実施することとなりました。皆さんをキャンパスに迎えるにあたって、十分な感染予防対策を施すと同時に、学内での遠隔授業受講のために教室内Wi-Fi環境の拡充や、年間付与プリントポイントも5,000ポイントから10,000ポイントへと倍増させる等の対応を実施しました。一方、遠隔授業については、準備段階から皆さんの状況をアンケート調査により把握しつつ、その適正な運用と充実を図ってきました。前期遠隔授業開始前、開始後1ヵ月の時点での2回の調査結果についてはすでに報告した通りです。第3回目となる今回の報告は、前期授業終了時点に当たる8月の時点での遠隔授業の評価とコロナ禍による日常生活および健康管理等を調査した結果についてのもとなります。

さて、今回の調査結果からは、遠隔授業全体として満足度は高くなっていますが、二極化傾向があり、さらに向上が望めるところや今後のサポート体制の在り方についての手ごかりがみえてきました。具体的には、遠隔授業では、科目あたりの課題・予習・復習時間が、昨年度の授業アンケートと比べて圧倒的に増えていました。必要なサポートとして、レポートの書き方や上級生やクラスメートのアドバイスが上位にあがり、遠隔授業や効率的学習を推進するための重点課題が明確になりました。また、今回同時に行った日常生活および健康管理等の調査結果から、コロナ禍がもたらした新しい生活様式への戸惑いや経済的不安感、就職活動への焦りなど、皆さんの大学生活に及ぼす影響が少なからず看取することができました。

本学では、前期期間中より、電話やオンラインなどで学生の皆さんから寄せられた様々な相談に対して、本学独自の奨学金の増額や教職員有志による募金活動、学修サービスの充実、健康・学業相談体制の強化など、皆さんが安心して希望に満ちた大学生活を継続できるよう努めています。今後の感染症の再拡大も予断を許さない状況です。半期遅れで初めての大学生活を過ごす1年生の皆さんや、本格化する就職活動、卒業論文の執筆、部活動などに取り組む在学生の皆さんは、心配事や不安なことがあればクラス担任や学科の教員、関係部署に早めにご相談ください。

なお、現在の生活・健康管理等に関する調査結果については、別途、健康サポートセンターから報告させていただきます。

1. 回答状況

2020年8月6日～8月23日の18日間で実施し、全学生数9943人のうち5,429人から回答がありました（回答率：54.6%）。区分別では、大学：4,444人（53.2%）、短大：862人（65.8%）、大学院123人（42.1%）の回答でした。前回に比べ、大学および大学院の回答率は約15ポイント下がり、短大は約10ポイント下がりました。これまでのアンケート回答状況と同様に下級学年の回答率が高い傾向が見られます。学科・学年別に見た回答率は次のとおりです。表中の横棒は回答率を表しています。

<大学>

	日文	英文	心福	教育	健康	環境	食物	情報	建築	音楽	薬学	看護	経営	合計
1年生	80.9	77.1	82.6	79.8	69.3	70.8	75.2	77.2	75.5	78.0	56.5	62.2	52.3	71.2
2年生	63.4	58.7	66.5	60.5	54.6	59.4	55.6	51.2	48.4	71.4	48.8	45.2		57.0
3年生	50.3	57.1	54.7	54.0	64.1	50.3	50.0	39.5	45.9	58.3	40.4	23.1		49.9
4年生	34.6	49.2	44.5	34.1	44.3	29.7	44.2	35.0	52.3	46.0	33.7	8.7		38.1
5年生											15.8			15.8
6年生											34.9			34.9
回答率	55.9	59.7	61.9	56.7	57.9	53.3	57.5	50.8	61.4	63.8	39.2	32.7	52.3	53.2

<短大>

	日文	英文	心福	教育	健康	食生	生造	合計
1年生	77.6	80.0	68.4	72.6	69.6	76.5	79.3	75.0
2年生	57.3	58.9	63.3	56.3	50.8	59.2	56.0	57.9
回答率	67.3	68.6	65.7	63.9	60.0	65.1	67.4	65.8

<大学院>

	合計
回答率	42.1

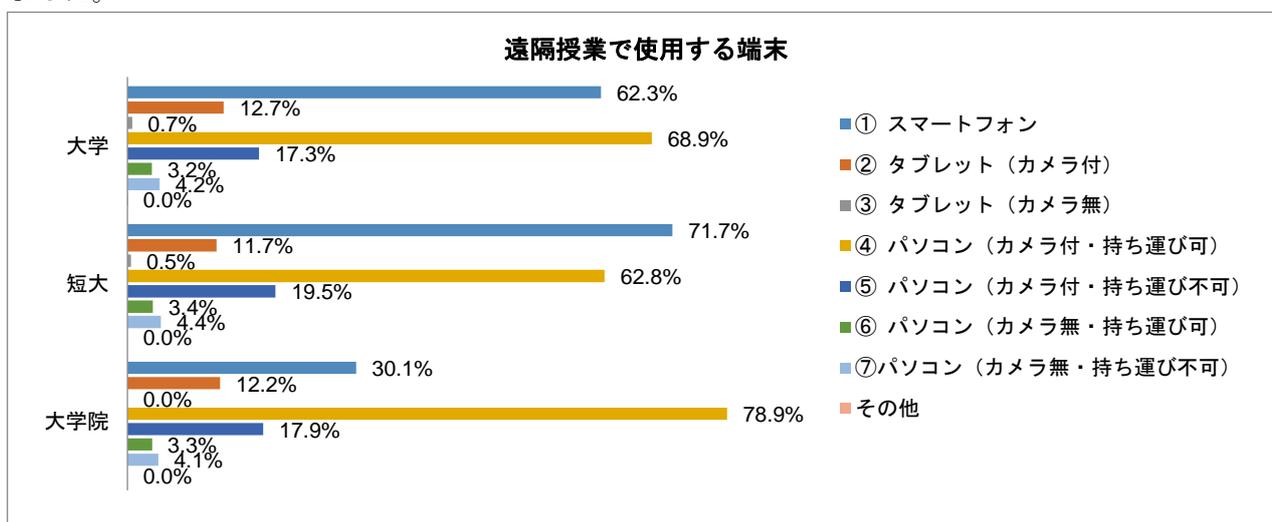
2. 集計結果・分析

1) 遠隔授業に関すること

〔問1-1〕 7月時点で、遠隔授業を受講する際に利用している端末はどれですか？（複数回答可）

遠隔授業で使用している端末は、大学および短大では「①スマートフォン」「④パソコン（カメラ付・持ち運び可）」が60%を超えていました。第2回目の調査と比べると、「①スマートフォン」の使用が大学・短大いずれも10ポイント近く増えています。これは遠隔授業に慣れる中で、機能性が高く手軽なスマートフォンを授業に応じて効率よく活用している結果と思われる。大学院でも、前回同様に「④パソコン（カメラ付・持ち運び可）」が78.9%と圧倒的に多いものの前回の82%からはやや減少しました。「①スマートフォン」の使用率は30.1%と大学・短大ほど多くはありませんが、前回17%からの増加率は約13ポイントと高くなっています。

一方、「①スマートフォン」のみを使用している割合は、大学4.1%（前回6.6%）、短大7.1%（前回12.1%）、大学院0.8%（前回1.8%）と前回よりさらに減少し、パソコンの保有率が上がったことがわかりました。



〔問1-2〕 前項で回答した端末（スマートフォン以外）は、個人専用ですか？

第2回目の調査とほぼ同様の結果となり、大学・短大とも70%～75%が個人専用で、20数%が家族と共有しているという結果でした。複数台の端末を所有しているケースも多くみられ、学習環境の二極化が伺えます。大学として、加速する社会のICT化に対応できる教育・学習環境の整備に努めたいと思います。

〔問2〕 現在、遠隔授業用の資料等は、主にどのプリンターで印刷していますか？

遠隔授業で必要となる教材等を印刷する場所は、「①自宅・下宿先のプリンター」が大学（77.4%）、短大（70.2%）、大学院（83.7%）と大半を占めていますが、「②コンビニで印刷」は大学（13.4%）、短大（19.0%）、大学院（12.2%）でした。本学では、学内において年間 5,000 ポイント分を無料で使用できるプリントポイントサービスを提供しています。遠隔授業用の資料の印刷については、第 2 回アンケートでも経費負担が大きいとの意見が多かったため、前期に利用できなかったプリントポイントを後期に積極的に活用していただくため、年間の無料ポイントを 10,000 ポイントに増加しました。

〔問 3〕後期の遠隔授業を受講する際に利用する端末はどれですか？（複数回答可）

後期の遠隔授業で使用予定の端末は前期と同じ傾向となり、慣れた環境での学習を計画しているものと考えます。多くはないものの、後期にむけてパソコンや周辺機器の購入（既存のパソコンに付ける外付けカメラ）を検討しているとの回答もありました。

〔問 4〕前期に履修した科目は、シラバスの記載内容に沿って進められましたか？

シラバスの記載内容に沿って進められたかについて、「①かなりそう思う」「②ややそう思う」と回答した割合は、大学（84.0%）、短大（85.7%）、大学院（87.8%）で、多くの授業がシラバスに沿って進められました。一方で、「③あまりそう思わない」「④全然そう思わない」と回答した割合は、大学（16.0%）、短大（14.2%）、大学院（12.2%）と一定数あり、科目によってばらつきがあることがわかりました。これは、緊急事態宣言の中で急遽、遠隔授業の導入が決まったことや、履修登録確定と授業開始のタイムラグ等もあり、初回の授業内で変更点の説明とその理解に不一致が生じたためと考えられます。引き続き、科目担当者にコミュニケーションの徹底を促していきませんが、学生の皆さんからもシラバス内容に不明な点があれば科目担当者へ質問するよう心掛けてください。

〔問 5～7〕「ライブ配信型」「オンデマンド型」「資料配布型」について、の満足度および (1)～(6) の回答結果*

<遠隔授業の満足度および設問ごとの傾向>

授業形態別の満足度および設問ごとの傾向を以下に示します。大学と短大は同じ傾向であったため、代表して大学のグラフを示します。

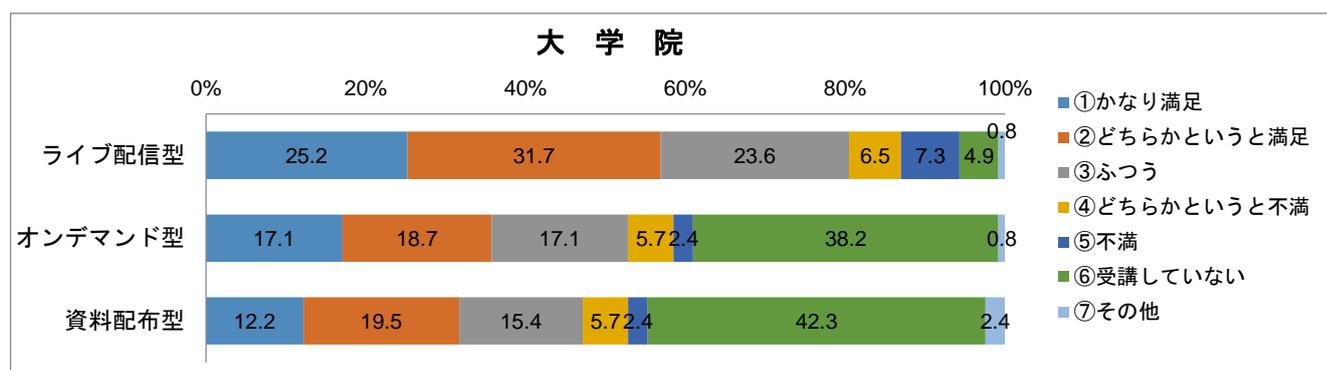
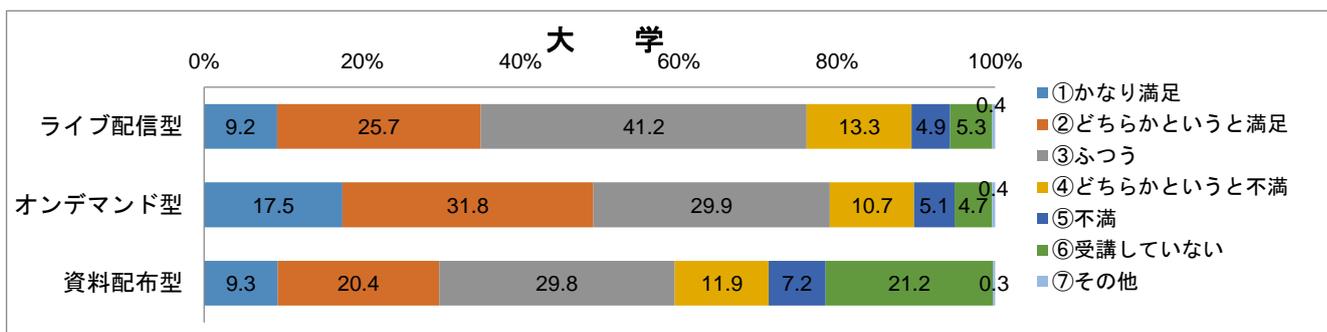
大学・短大においては、3つの形態における科目あたりの課題・予習・復習について、大きな差はみられませんでした。しかし、特筆すべき点として、学修時間の増加が明らかになりました。本学では、これまで毎年科目ごとに授業アンケートを実施してきましたが、昨年度までの授業アンケート結果では、平均的な週当たりの学修時間は「30分未満」以下の割合が約 50%であったのが、今回の結果をみると、週当たりの学修時間は「1.5時間未満」が 40%前後と一番多く、遠隔授業になって学修時間が増加していることが明らかです（この結果は問 10 でも裏付けられています）。

本来、学則上の大学の学修時間は、講義科目 2 単位では 90 時間(1 単位は 45 時間)の学修が必要です。通常授業 15 回×2 時間授業(90 分)+予習復習 60 時間が目安となり、週当たり平均 4 時間の予習復習が必要であるため、本来の学修時間に対して十分とは言えませんが、非常に改善していると思われます。また、満足度については、科目によって異なるという意見も散見されました。科目目標がそれぞれ異なるため、すべての授業を統一的に見ることは難しいですが、Classroom の利用方法や授業運営などについて、今後も講習会の開催やマニュアル等の整備を行う予定です。

今回の調査は、前期の成績発表前に回答したケースも多く、特に成績評価に関する理解が不十分だった傾向がありました。後期では、シラバスへの記載項目を追加し、授業内での説明を徹底する対応をしていますが、授業に関して不明な点があれば、早めに科目担当者へ確認するようにしてください。

大学院では、ほとんどがライブ配信型授業で、約 4 割がオンデマンド型と資料提供型を受講しておらず、大学・短大とは異なる傾向がみられました。

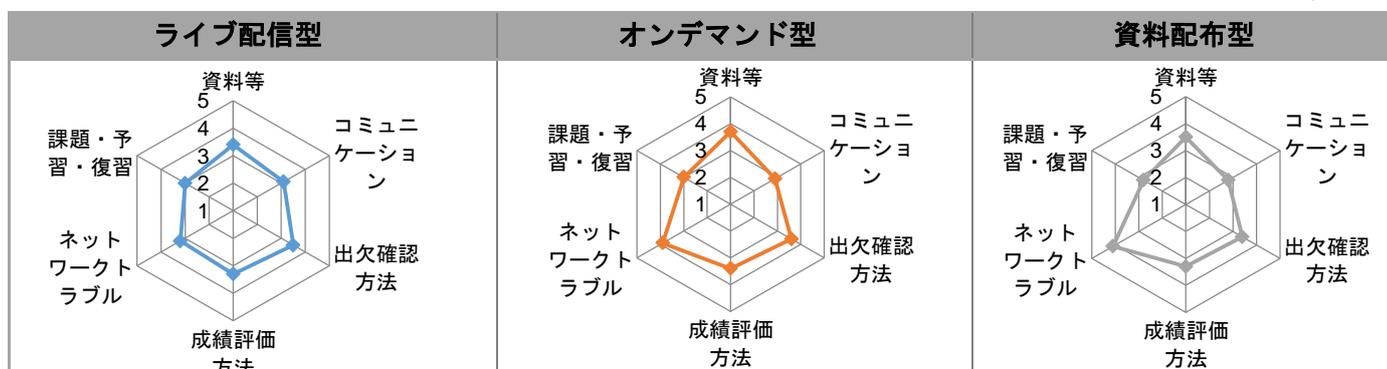
◆満足度をお聞かせください



- ※ (1) 動画音声や資料等の文字は聞きやすく見やすいものでしたか？
 (2) 科目担当者や他の履修者とのコミュニケーションはできましたか？
 (3) 出欠確認方法は、適切だと感じられましたか？
 (4) 成績評価方法は、適切だと感じられましたか？
 (5) ネットワークトラブルによる通信障害（授業の中断）や、音声・画像の受信状態の一時的悪化などはどのくらい発生していますか？
 (6) 1科目あたりの課題・予習・復習に平均して週あたりどのくらい勉強しましたか？

※ (1) ~ (4) は「①かなり満足：5、②どちらかという満足：4、③ふつう：3、④どちらかという不安：2、⑤不満：1」とする。
 (5) は「①よくある：2、②時々ある：3、③ほとんどない：4、④ない：5」とする。
 (6) は「①全くやっていない：1、②30分未満：2、③1.5時間未満：3、④3時間未満：4、⑤3時間以上：5」とする。

注) 代表して大学の結果を示します。



ライブ配信型の傾向

オンデマンド型の次に満足度が高い授業形態です。対面授業と変わらない授業が実施できることと、授業の動画や資料等においても十分な満足度があり、他の授業形態に比べて科目担当者や他の履修者とのコミュニケーションの機会が得やすい点が特徴です。しかし、成績評価や出欠確認方法に若干の不満意見もありました。口頭での説明を聞き逃がしたり、点呼での出欠確認に時間がかかる等です。ネット

ワークトラブルは「よくある」、「時々ある」が7割近くあり、授業終盤になっても不安定な状況があることが確認できました。6月に比べると授業に支障をきたすような不具合は報告されてはいませんが、今後も改善が必要です。課題・予習・復習の時間については、他の授業形態と比べると時間が短い傾向があります。

オンデマンド型の傾向

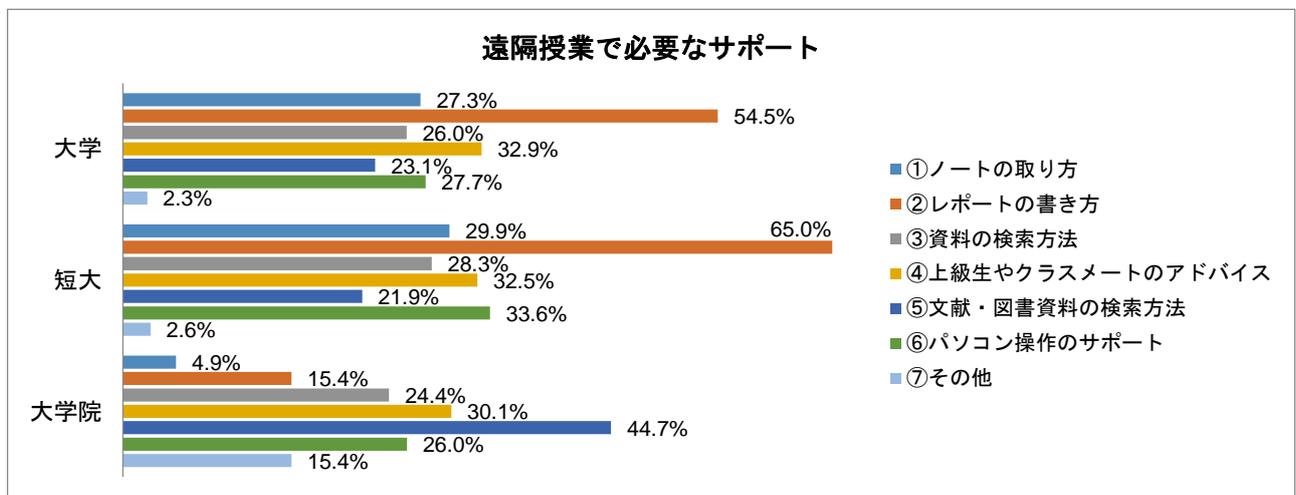
ネットワークトラブルを受けにくいいため授業の動画音声聞きやすく、資料等の文字が見やすい点が優れています。さらに自分のペースで繰り返し見ることができるため学修成果を実感しやすく、一番満足度が高い授業形態です。しかし、ライブ配信型に比べ他の履修者とのコミュニケーションが少ない傾向があります。後期授業においては、原則、講義科目はオンデマンド型が主流となります。

資料配布型の傾向

他の授業形態に比べると全体の満足度は低くなっていますが、成績評価や出欠確認方法の不満は少ない傾向にあります。双方向のやりとりが少ないため、説明が徹底されていたと思われます。また、ネットワークトラブルを受けにくいことも利点です。しかし、授業内容において、科目担当者によって説明が不十分で理解しにくいという不満の声もあげられています。

〔問8〕遠隔授業を進めるうえで、必要なサポートがありますか？（複数選択可）

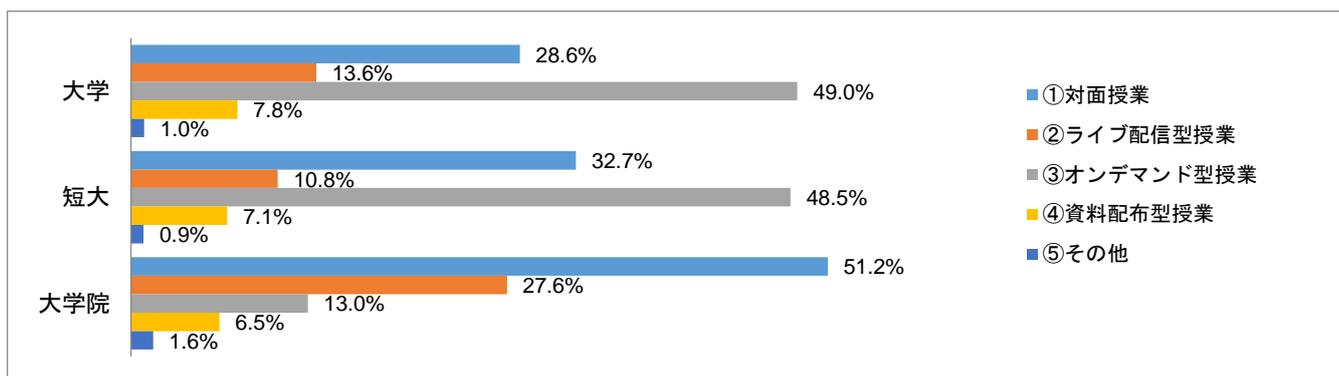
遠隔授業を受ける上で必要と感じているサポートについて尋ねたところ、大学・短大ともに圧倒的に多かったのは「②レポートの書き方」で、次いで「④上級生やクラスメートのアドバイス」「⑥パソコン操作のサポート」「①ノートの取り方」でした。遠隔授業でレポート課題が多かったことや、他者とのコミュニケーションの機会が少なかったことが要因と考えられます。また、当然ながら下級学年の方が、選択の項目数が多い傾向にあり、1年生にとっては、大学での学び方の導入がないまま遠隔授業に突入し、様々な問題をかかえていたと推測します。その他の項目で多かったコメントは、講義資料の印刷に関する経費支援や、課題や質問へのフィードバック、先生方への遠隔授業の支援となっていました。



1年次後期に開講する初期演習Ⅱでは、一部学科でレポートの書き方やアカデミック・ライティングについての授業を予定しています。さらに、全学生が受講できる共通教育科目の「日本語表現の基礎」など、レポート作成に役立つ、文章の構成理解や論理的な文章作成を身に付ける科目も開講しているので、必要に応じて受講していただきたいと思います。

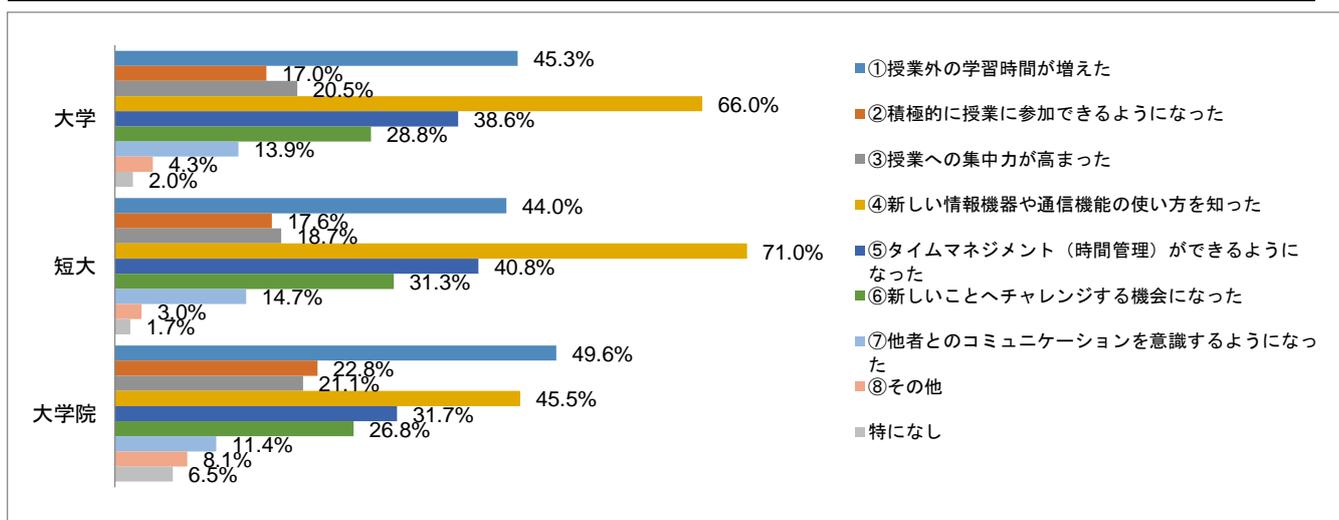
今年度の開講内容は、新型コロナウイルス感染拡大前に決定して変更できませんでしたが、次年度以降については、今年度の結果を踏まえて、初期演習の見直しなど必要な検討を進めていきます。

〔問9〕あなたが最も受けやすい授業形態はどれですか？



学生が最も受けやすい授業形態は、大学（49.0%）・短大（48.5%）でオンデマンド型授業がそれぞれ一番多く、大学院では対面授業（51.2%）を選択した学生が多い結果となりました。前述のとおり、オンデマンド型授業では、ネットワーク環境によるトラブルの影響が少なく、自分のペースで学習ができたり、授業の説明を何度も聞き直せることが他の授業形態にはない魅力として評価されています。一方で、感染症予防のための登学制限の中でも、対面授業が受けやすいと回答した学生が約 3 割存在していることは、大学としても重く受け止めています。大学院では、少人数であることや研究論文作成に伴う教員指導や実験など、遠隔授業では十分な授業を提供することが難しい面があるため、対面授業の希望が増えています。後期には、遠隔授業のメリットを活かしつつ、対面授業との併用で、皆さんと教員の交流から生まれる教育に期待しています。

〔問 1 0〕 今回の遠隔授業があなたにとってプラスの変化につながったことがありますか？（3つ選択）



大学・短大・大学院すべてで顕著に多かったのは「④新しい情報機器や通信機能の使い方を知った」で、学生の皆さんが、遠隔授業を受講するための知識や使い方をしっかりと身に付けられたことがわかります。次に多かった項目は「①授業外の学習時間が増えた」で、これは「その他」で多くコメントがあった「通学時間がなくなった」ことや、出欠確認のための課題提出が増えたことによるものと思われます。続いて多かった項目は、「⑤タイムマネジメント（時間管理）ができるようになった」であり、課題提出日の管理、生活リズムや課外活動の時間管理などが必要とされたからと考えています。また、「⑥新しいことへチャレンジする機会になった」も全体で約 3 割近くの学生が回答しています。具体的な内容は記載されていませんが、通学時間の削減が、新しいことへの取り組みに活用できたようです。以上の項目は、見方を変えると従来の大学教育で推進すべき課題であったものもあり、遠隔授業がこれらの課題を加速する契機となった面も見受けられました。

2) 後期授業実施に向けた、現在の日常生活における健康管理・感染症予防に関すること

〔問 1 1〕 遠隔授業以外で、クラスメートや友人、先輩・後輩等と交流・意見交換する機会はありますか

か？

「①よくある」「②時々ある」と回答したのは大学（46.8%）、短大（42.2%）で短大は大学よりもやや低い傾向となっています。大学院（51.3%）は、半数以上が交流・意見交換する機会があると回答しました。学年別で見ると、大学・短大1年生では「③ほとんどない」「④全くない」と回答する割合が大学（62.5%）、短大（64.7%）と上級学年より突出して多くなっています。

〔問1 2〕 気分が落ち込んだり、一人で悩むことはありますか？

気分が落ち込んだり、一人で悩むことが「①かなりある」「②時々ある」と回答したのは、大学（62.8%）・短大（65.7%）・大学院（62.6%）で、いずれも60%以上となっています。学年による差はほとんど見られませんが、半数を超える学生が、コロナ禍の中で、登学制限によりクラスメートとの出会いや交流がないまま前期間を過ごすことになり、不安な生活を過ごしていたことが推測できます。

〔問1 3〕 コロナ禍によりこれまでの生活が一変しましたが、この機会に、新たに取組んだことやチャレンジしていることはありますか？

大学（43.1%）・短大（42.9%）・大学院（43.9%）と、いずれも40%を超えて新たに取組んだことやチャレンジしていることが「ある」と回答しました。具体的な取り組み内容については記載を求めています。コメント欄には就職活動や資格試験などがあげられています。

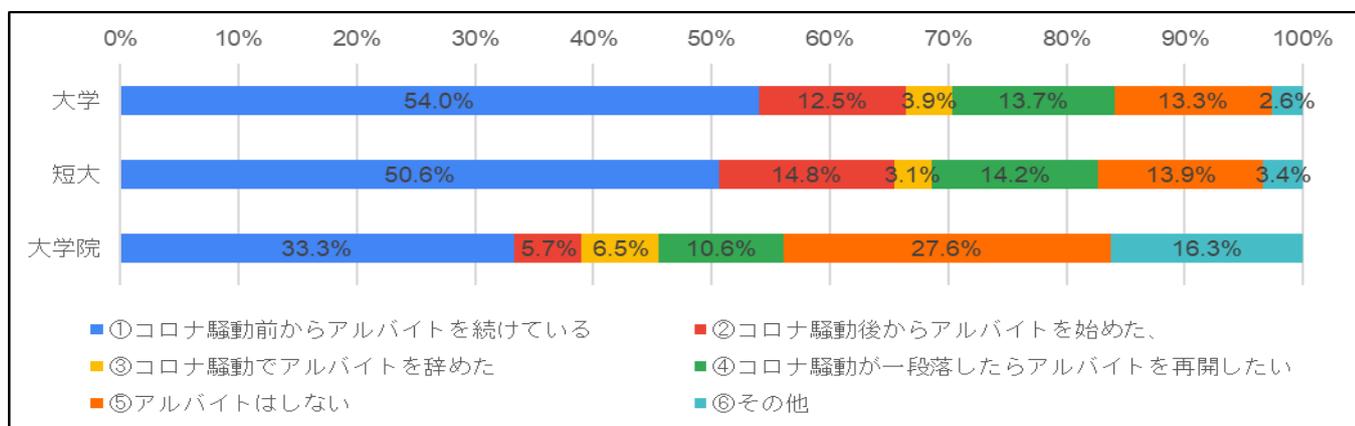
〔問1 4〕 昼夜逆転現象は起きていませんか？

「①起きている」「②やや起きている」と回答したのは、大学（45.4%）、短大（51.3%）、大学院（31.8%）で、大学院ではやや低く、大学・短大では半数近い割合でした。次項のアルバイトとの関係性をみると、昼夜逆転とアルバイトの有無について関係性はみられませんでした。

〔問1 5〕 アルバイトをしていますか？

大学（54.0%）・短大（50.6%）では、半数以上が感染症拡大前からアルバイトを継続しています。8月の調査時点では、「コロナ騒動でアルバイトを辞めた」割合は少なく、逆に「コロナ騒動後からアルバイトを始めた」「コロナ騒動が一段落したらアルバイトを再開したい」とする割合が、それぞれ十数%ありました。仕事内容では、飲食業が約30%、小売業が約20%と多くを占めており、感染が懸念される接客業が多くなっています。

大学院については、定職を持つ社会人学生がいることから、「⑤アルバイトはしない」（27.6%）、「③コロナ騒動でアルバイトを辞めた」（6.5%）と回答した学生が大学・短大の約2倍を占めます。仕事内容では、飲食業（12.2%）や教育関係（8.9%）に次いで事務や医療系が多くなっています。



3. 分析のまとめと本学の対応

<パソコン・インターネット環境について>

遠隔授業で使用する端末について、第2回目の調査結果から変化があった点は、スマートフォンのみ

の使用が減り、パソコンやタブレットとの併用が増えたことです。科目によって必要な端末の機能が異なりますが、今後対面授業と遠隔授業双方の教育効果を高められるよう、学内の施設・設備の効率的活用を検討します。学生の皆さんも引き続き受講環境の整備をお願いいたします。

<後期授業について>

後期の遠隔授業については、第2回目の調査でいただいた多くのご意見と今回の調査結果から、講義科目については原則オンデマンド型で実施するという方針を決定しました。前述のとおり、オンデマンド型授業は満足度や教育効果が高い傾向が認められましたが、教員が遠隔授業の準備として、対面授業よりも丁寧な説明を心がけた教材作成や課題のフィードバックに取り組んだ成果であると考えています。しかし、ごく一部の科目については、教員のICTスキルが不十分という指摘や、皆さんと科目担当者双方の授業方法に関する共通認識が不十分な例がみられました。

一方、教員と学生の皆さんとの双方向性の確保という点から、一部の学科の資格認定にライブ配信型の講義形式が必須であることが確認できました。また、学生同士のグループディスカッションなどが設定できるライブ配信型授業の可能性についても今後さらに検討を続けていく必要があると考えています。

<学生支援について>

遠隔授業に必要なサポートとして多かったのは、「レポートの書き方」「上級生やクラスメートのアドバイス」「パソコン操作のサポート」でした。例年であれば、1年生の初期演習Ⅰ・Ⅱで、これらのサポートを前期から後期にかけて実施していましたが、今年度のようにすべての科目を突如、遠隔授業で実施することは想定していませんでした。今回の調査では、新入生だけでなく2年生以上の学生の皆さんも、サポートを必要としていることが明らかになりました。今後、初期演習Ⅰ・Ⅱや共通教育科目を含め、学修を進めるうえで必要なスキル等を必要に応じて習得できるよう検討する予定です。

後期授業開始にあたっての担任ガイダンスは、感染予防対策の観点より、一部の学科を除いてオンラインで実施することとなり、「後期担任ガイダンス専用サイト(9月30日までの公開)」を新設して情報発信をしました。今後、教職関係やキャリア支援、大学生活の悩みや資格サポート等について、各担当ホームページでの情報発信に努めます。電話やメールによる対応に加え、登学時の対面相談についても安心して行える体制を整えていますので、積極的に活用してください。

<最後に>

新型コロナウイルス感染症の影響により、大学の前期授業は全て遠隔授業となりました。この間、学生の皆さんのご意見や教員による様々な試行錯誤が繰り返され、これまでのアンケート結果からは、遠隔授業は質問しやすい、理解しやすい、学習時間が増えたなど、遠隔授業特有の教育効果や新たな可能性を確認することができました。

後期になり一部で対面授業を開始したことに伴い、学内で学生同士が交流する様子も見られるようになりました。クラスメートと出会い、再会した学生の皆さんの明るく楽しそうな様子を目にすると、感染のリスクを恐れながらも、大学の本来あるべき姿を想起させます。アンケートでは、新入生の6割強が、前期中、遠隔授業以外でクラスメートや友人、先輩・後輩との交流がほとんどなかったこと、気分が落ち込んだり、一人で悩んでいることがあったと回答しています。コロナ禍は、他者との距離を促し、大学キャンパスの機能を一時停止させました。改めて、様々な人との出会いや協力関係を構築する場としての大学の重要性を再認識することができました。

一日も早くコロナ禍の終息を祈るばかりですが、今回の経験から得られた知見を、これからの大学の在り方、大学教育の在り方に活かしていきたいと思えます。

最後に、後期授業については、各科目の授業内容の改善を目的にした授業アンケートを実施します。MUSESによる回答形式になりますが、より良い授業にするために引き続きアンケートへのご協力をお願いいたします。